

NO	サイトの愛称	愛称に込めた思い、理由などを自由にお書きください。
1	おおつれきぶんなび	大津市の歴史文化を手軽に知ってほしい、サイト名を親しみを持って呼んで欲しい、大津市の歴史文化を知りたいと思った時にナビのように使ってほしい、という気持ちを込めて名前を考えました。
2	ことまど	湖都歴史文化の情報を集約する窓口として愛され、親しまれてほしい。湖都＋窓口の造語で、年齢を問わず誰でも読めて、親しめるようにすべてひらがなにしました。
3	ミナエル(minael)	大津市の歴史や文化について知りたいと思った人が気軽に訪れ、誰でも様々な情報が得られるサイトなので、「皆」、スペイン語の「mina(宝の山)」、「得る」を合わせて「ミナエル」としました。英語表記は「minael」となります。
4	ヒカルれきぶんサイト	大津の歴史文化芸術がこれからもヒカリ続いていける願いを込めました。カタカナの光るで、こども・若者層にも親しみやすく、イメージがすぐに入りやすく、大津市の売りである歴史要素は必ず入れて、芸術の言葉も入れたかったのですが、全体の字数から、文化の言葉に集約し、これも親しみやすく「れきぶん」とひらがなにしました。視覚的にもぱっと目に付くよう、星マーク記号をヒカルとれきぶんの間にいれたかったのですが、禁則だったので、そのままつなげました。
5	湖々カラッ！	連想ゲームのように湧いたものです。小さい「っ」で一步踏み出す勢いを表現してみましたっ！すべての歴史、文化は琵琶湖から！カラッと晴れた湖水の水面と空。気持ちいい最高の景色ですね。ゼゼカラ（笑）にも触発されてます。あの小説、大津の宝ですね！私の場合は下阪本、坂本城からっ！です。時系列的な現在地を確認するサイト、ココカラという響き、いかがでしょう。
6	おおつ光ル歴史文化らば	おおつ光ル君と大津歴史文化研究のさらなる繁栄を願って。
7	ココサイト	1. 湖湖＋サイト＝ココサイト。大津市の情報集約サイトということで、琵琶「湖」に臨む水の都大津市をイメージした名前。 2. ここ＋サイト＝ココサイト。このサイト、「ここ」に行けば、情報をまとめることができる、情報集約サイトの良さを表現しました。 3. 個々＋サイト＝ココサイト。市の歴史文化や文化芸術に関する「個々」の情報が集約されている。 以上3つの意味を込めた、シンプルかつ親しみやすい名前を考えてみました。
8	おおつ薫ルくん（おおつかおるくん）	大津市の歴史・文化が「薫る」サイトであることと、市の観光キャラクター「おおつ光ルくん」にかけた愛称です。 ※ちなみにですが、光ルくんといえはの源氏物語には、「薫」という名の人物(光源氏の次男)も登場いたします。
9	光るんおおつ	東京から大津へ引っ越して7年になりますが、住めば住むほど、知れば知るほど『大津って歴史的なものにあふれ、素敵な文化もいっぱい！』と感じています。なのに、それらを紹介するものが(私個人の思いですが)あまりに『わかりにくい！』です。もっともっと、わかりやすく、身近に情報ゲットできるとイイですね～！
10	大津ヒステラス	歴史の「ヒストリー」に、みんなが集まる「テラス」・大津の未来を明るく「照らす」サイトというイメージで名付けました。
11	レキシルベ	このサイトが「歴史を知る標(しるべ)」となりますように。
12	ロマンが光ルくん	歴史や文化には大きな夢やロマンがあります。大津市の歴史や文化に秘められたロマンに光をあてるのが本情報集約サイトであり、観光大使であるおおつ光ルくんの名前とかけてみました。

13	湖都の記憶	「琵琶湖を中心に栄えてきた大津（＝湖都）」の歴史・文化・芸術を、まるで記憶のように未来へと受け継ぎ、静かに語り継いでいく場所にしてほしいという思いを込めました。この愛称を通じて、訪れた人が大津の魅力を再発見し、「記憶に残るまち」として感じてもらえることを願っています。
14	つながる歴史 おおつ絵巻	大津には古くから数多くの歴史が息づいており、歴史のまちとして非常に魅力的な側面を持っています。 しかし、そうした魅力が県内外に十分伝わっているとは言えません。そこで、今も脈々と続く「大津の歴史」が、絵巻物のように広がりながら、未来へと楽しくつながっていくことを願い、この名前を考えました。「つながる歴史 おおつ絵巻」には、大津の文化や歴史をもっと身近に、そして物語として伝えていけたら…という思いを込めています。
15	ニシコーリ	1974年大津市錦織一丁目で行われた発掘調査により、内裏南門跡と考えられる柱穴が発見され、錦織遺跡が大津宮の遺構と断定されたからです。発見の地錦織に敬意を表し「ニシコーリ」とし愛称と考えました。
16	オーツギャザー	たくさんの方々に大津の歴史や文化、芸術に触れて頂きたい気持ちから、情報の発信場所に集まろう！の意味です(*^^*)
17	レインボーシティおおつ	古代より歴史、文化芸術面でもどこにも負けない大津市、これからもずっと七色の虹のように人びとに愛される街でありますように！
18	光りびと	過去から受け続けられた文化財が「脚光を浴びるの光」「光る君への光」「琵琶湖の湖面の輝く光」大津市の明日が明るく未来へ光り輝くように。
19	大津輝き光ナビ	大津は、天智天皇の都があり、歴史や文化が、輝き照らされており、歴史や文化情報の情報サイトなので、キャラクターの大津光君を組み合わせ、市民の方に親しまれように大津輝き光ナビと名付けました。
20	大津きょうのお話	まず、京（みやこ）であった大津の歴史文化の発信として『大津京のお話』という意味を含め、また、今日のまさに今の新しい情報を発信するという意味で『大津今日のお話』という意味をもたせ、『大津きょうのお話』とさせて頂きました。なお、『お話』とは情報発信という言葉をやわらかく表現しています。これは『大津京の』と『大津今日の』の意味を持たせたダブルミーニングです。過去の歴史と現代の情報を同時に発信するサイトコンセプトに合わせて考えてみました。そして単なる情報発信だけではなく、言葉遊びのような奥深さも含み、歴史ある大津の文学を少しでも連想してもらえるのではないかと思います。さらに『京』と『今日』を掛けることで『過去から未来へ情報を繋ぐ』という大きな意味も感じてもらえるといいかもしれません。
21	かわたれどき	大津市は琵琶湖の西側に位置しており、琵琶湖の向こう側から朝日が昇ります。日の光が琵琶湖を照らし出す「かわたれどき」の美しい景色は特別で、長い歴史の中で今も昔も変わらず人々に愛されてきたのではないのでしょうか。
22	ヒストリカル オオツ	歴史と文化を融合した造語。 以前、NHKで放送していた番組「ヒストリア」からヒントを得て命名した。
23	大津コムコム	大津市が歴史や文化、人や物が行き交う交流拠点として「施設が混む」「街が混む」イメージより命名しました。
24	大津めぐーる	それぞれの歴史や文化拠点を結び、手軽に巡ることで多くの人たちが巡り逢えるように願って命名しました。
25	おおつ光ルくんのたまてばこ（又は玉手箱）	市のキャラクターであるおおつ光くんがたくさんの情報をくれる。いろいろ見てみると、まるで「たまてばこ」を開けてすばらしい中身を見ることができる。